

第3回小橋用水堰デザイン検討委員会

議 事 要 旨

1. 日 時：平成22年3月30日（火） 15：20～16：50
2. 場 所：石川県地場産業振興センター 本館2階 第1研修室
3. 出席者：玉井委員、黒川委員、馬場先委員、八田委員、前多委員
小倉委員、林委員、角間委員、竹内委員
(北村委員、中村委員、川村委員においては、ご都合により欠席)
4. 会議の概要
 - (1) 開 会
 - ・事務局の司会進行により開会された。
 - (2) 挨拶
 - ・石川県中村河川課長から挨拶が行われた。
 - (3) 議 事
 - 1) 議事公開の確認について
 - ・委員長から議事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。
 - 2) 検討課題
 1. 第2回委員会での提案
 - 1-1. 第2回委員会までの提案骨子
 - 1-2. 第2回委員会での意見と回答
 - ・事務局から第2回委員会までの提案、委員からの意見とそれに対する回答について説明が行われた。
(質 疑)
・各委員からの主な質疑・意見内容については、次ページ以降に示す。
 2. 全体イメージパースの提示
 - ・事務局から全体イメージパースについて説明が行われた。
(質 疑)
・各委員からの主な質疑・意見内容については、次ページ以降に示す。
 - 3) 提案内容のまとめ
 - ・事務局から提案内容のまとめについて説明が行われ、概ね了承が得られた。
 - ・残った個別の問題については、事務局で検討を進め、各委員に意見を伺いながら委員長の判断で結論を得る方針となった。
 - (4) 閉 会
 - ・事務局より閉会の挨拶が行われた。

第3回検討委員会 各委員からの主な質疑・意見 及び 事務局回答・意見

管理棟について

- ・現状だと妻側の破風が出ていないが、今回計画する管理棟は妻側に破風が出るのか。(黒川委員)
- ・妻側にも平側にも破風が出るような形で計画している。(事務局)
- ・窓があまりない形となっているが、事務室の使用者に対し問題はないのか。(玉井委員長)
- ・土蔵風の景観を考慮して、最低限の窓にしている。(事務局)
- ・窓が小さい方が景観的に土蔵風に見える。(黒川委員)
- ・蔵風と言って大きな窓をつけたら格好がつかない。(林委員)

堰について

- ・二重構造で音が軽減するということが、景観的に見ると従来水が流れていたものが全く見えなくなるため、多少でも切り込みを入れて、水が落ちた方がいいのではないかと。
川の景観として、下流側から見たときに乾いた堰だけが見える景観というのはいかがなものか。
(黒川委員)
- ・堰に蓋をするとその分は中を通らないため、水が落下するが、どれくらいの音が生じるかは予測していない。(事務局)
- ・それほど音の増大がなければ、水が落下した方が理想的だと思う。(黒川委員)
- ・景観としては、ある程度水が落ちていた方が川らしいが、音の問題を心配されている付近住民の思いを遵守してあげた方が良い。(小倉委員)
- ・新しい堰では、下部から洗掘防止用のプールに流れ出る水が、流れの表情を作ると思われる。
(玉井委員長)
- ・堰柱まで護岸のような谷積みの模様をつけるのはいかがなものか。(黒川委員)
- ・横から見た場合に、そこだけ材質が違うよりも同じ方が重なって見えて、それほど圧迫感を感じないのではないかと。同じデザインの方がむしろ軽減されると思われる。(馬場先委員)
- ・参考にコンクリート打放しやスリット入りの案を作ったが、違うものを入れると、なおさら目立つのではないかと考えている。(事務局)
- ・あくの問題等があるため、コンクリートは余りむき出しにしない方が良い。(八田委員)
- ・堰が倒れるところだけ石垣模様がいないのか。デザインとしては小叩きの方が良いのではないかと。
(黒川委員)
- ・デザインを専門としてきた立場からは、原案(コンクリート部分)の形態、表面処理とも伝統都市のデザインとして到底満足のいくものではない。専門家による十分な検討を行っていただきたい。特に護岸とセンター柱の造形はそれぞれ形の根拠となるコンテクストが異なっており、これを安易に同一にすることはさげねばならない。なお、センター柱の形状については、堰が転倒する際の軌跡にそった必要最小限の形を基本にすべきであり、表面処理はそれに伴って考えるのが順序である。(黒川委員：補足)
- ・左右岸の護岸の部分も同じ形になる。(前多委員)
- ・堰が転倒した時には異質な半円がめだってしまう。(馬場先委員)
- ・堰の構造については、鉄板の部分をなるべく少なくするよう検討する。(事務局)
- ・化粧型枠の目地の深さは70ミリで目地幅を狭くすることはできないのか。(黒川委員)
- ・目地の深さが70ミリの型枠は、現在は、この間隔の製品しかないと聞いている。(事務局)
- ・増水時の堰の操作は誰がするのか。(角間委員)
- ・基本的には堰頂から40センチの水位になると自動で倒れる。(事務局)
- ・以前、堰が上がっていて代掻き時に水がないことがあったが、強制的な操作はできるのか。
(林委員)

- ・自動に任せておくと堰が起き上がるまで 24 時間かかるが、強制的に操作することは可能である。
(事務局)
- ・堰の運用については、再度、関係者で話し合いをしなければならない。(小倉委員)
- ・堰の角度は調整可能か。(角間委員)
- ・調整することは可能である。(事務局)

管理棟の敷地・跡地について

右岸側の敷地について

- ・緑地については、必ずしも高木で深い根入りでなくても良い。根が浅くても植えられるもので、もう少し堀沿いにあったほうが良いと思う。
また、中島用水の暗渠の上にも植栽した方が良いと思う。
宅地側の防護柵は、板堀にする等もう少し検討しても良いと思う。竹垣の場合は、前に何本か木が植えてあれば見え隠れするので景観が少し和らぐ。(黒川委員)
- ・中島用水の上の土かぶりは約 90 センチあるので、それ以下の根のものであれば植栽可能である。
(事務局)
- ・高木については、金沢の町屋で比較的良好に植えられているキンモクセイを採用すれば、春から夏にかけていい香りがして名所になるのでないかと思う。(黒川委員)
- ・樹木は耐風性に優れた根が深いものを考えている。キンモクセイは比較的根が浅く耐風性に劣るため、マテバシイ等の樹種を選定している。(事務局)
- ・建物の横であれば耐風性は大丈夫だと思う。(黒川委員)
- ・歴史的な面から言うと、犀川と浅野川の城下までの港から一面に植わっていたのは松である。今までの歴史の流れの中で関連のないものは避けた方が良い。(馬場先委員)
- ・左岸側に現在ある松と対にするとということも考えられる。(玉井委員長)
- ・隙間のない堀を作ると、防犯上不安である。(小倉委員)
- ・入口が面している通りから、植樹等で死角を作らないようにすれば良いと思う。(林委員)
- ・入口は車止め程度のもので設置して、人は入れるような形で考えている。また、通りからは敷地内が見通せる形になるように検討したい。(事務局)
- ・堀と管理棟との間の狭いスペースには人が入れないようにした方が良い。(黒川委員)
- ・管理棟の事務室への入口があるため、通路として確保したいと考えている。(事務局)
- ・入口を右側(南側)に移すことはできないのか。可能であれば、防犯上のことも考慮して入口は通りから近い方に持ってきた方が良い。(黒川委員)
- ・再度検討する。(事務局)

左岸側の跡地について

- ・魚道と川岸との間にツツジを植える形になっているが、それだけの面積があるのか。(角間委員)
- ・堰柱の部分がなくなるため、スペースができると考えている。(事務局)
- ・高木については、シダレザクラとすることで名所となるし、毛虫等が魚道に落ちれば魚のいいえさになるのではないかと。もう少し植栽全体を魅力的にできないか。(黒川委員)
- ・魚道ができるまでサクラの木があったため、サクラが良いと思う。(角間委員)
- ・両岸を含めて樹種をもう一度吟味してほしい。安全性だけで決めると後々寂しくなる。
(黒川委員)
- ・植栽に関する景観デザインの常道としては、一つは歴史的根拠だが、もう一つは管理棟のデザインで行ったように、近隣のデザインサーベイから導きだしたコンテクストに基づくやり方である。他の要素も勘案し総合的な判断が必要である。(黒川委員：補足)
- ・安全性を確保した上で、景観も工夫してほしい。(馬場先委員)

魚道について

- ・魚道の入り口に土砂が堆積した場合、管理はどのように考えているのか。(角間委員)
- ・堰の下から出てくる水によって、土砂を流す効果を期待している。(事務局)
- ・現在よりも魚道の条件はよくなると思う。(玉井委員長)
- ・土砂の除去は、当然様子を見ながらしなければならないと思うが、今回の魚道はそんなに早く土砂が溜まらないだろうと期待している。(八田委員)
- ・魚道のごみの処理はどのように考えているのか。(角間委員)
- ・漁業組合で巡視し、必要に応じて県に依頼する。(八田委員)

その他

階段について

- ・左岸側に階段を残してほしい。(角間委員)
- ・一つの案として、下流の彦三大橋直上流で設置できないか検討中である。(事務局)

サイレンについて

- ・サイレンは自動で鳴るのか。(角間委員)
- ・現在の堰は、堰が上がる時に、自動でサイレンが鳴る形になっている。(事務局)
- ・サイレンの分散化についてはどのような状況か。(玉井委員長)
- ・現在検討中であることを地元にもお知らせしている。(事務局)

ごみについて

- ・堰の水が流れる部分には、ごみ防止の金網等を設置するのか。(小倉委員)
- ・計画の堰は上からフローしないため、上流から流れてきたごみが溜まるのではないか。(林委員)
- ・二重構造の水の流れる幅が30~40センチぐらいあるため、十分ごみは入っていくと考えている。(事務局)

辰巳用水について

- ・辰巳用水の水は一年中出ているのか。(小倉委員)
- ・雨の状況に左右される。(角間委員)

まとめ

第3回デザイン検討委員会のまとめが委員長から提示され、意見の一致を見た。

- ・堰や魚道に関しては、ごみの課題がある。
- ・管理棟の敷地については、防犯の観点への配慮が必要である。
- ・植栽については金沢の伝統を考慮し、サクラや松等も検討すべきである。

上記内容の個別の問題については、事務局で検討を進め、各委員に意見を伺いながら委員長の判断で結論を得る方針とする。